



3月9日

旅行記の続きになります。

この旅行記の前に6冊のバックナンバーがありますので良かったら併せてお楽しみください。この7冊目が一番最後になります。

[夜の底の旅その1](#)

[その2](#)

[その3](#)

[その4](#)

[その5](#)

[その6](#)



昨日はエステに行った。昔エステサロンに勤めていたし、エステは大好き。美しくなりたいというより、リラクゼーションが目的。

日本人スタッフのいるというランコムをサロンの目当てにでかける。さすがにフランス語でカウンセリングはできない。しかし宿の子のガイドブックをみせてもらった場所にランコムはない。移転したのか。残念。

それでもその界隈をうろうろしていると、beautyという看板が目にとまる。中をのぞ

くとエステサロンのよう。思いきって入ってみる。

みぶりてぶりでフェイシャル・マッサージを受けたいことを伝える。なんとか伝わり、マッサージ開始。

すごく香りのよいオイルでのハンド・マッサージ。気持ちよくてうっとり。鼻の脂を無理矢理押し出す施術があったのにはびっくりしたけれど、でもいいサロンだった。乾燥肌だから保湿を気をつけてねとエステティシャンのお姉さん。

帰りにはミントティーを頂く。ランコムの中額だったし満足。

昼の生牡蠣にはあたりませんでした。。



今日はモードと織物美術館を見学にでかける。ルーブルの隣に小さな美術館と博物館が集まっているのだが、目当ての美術館は4月からと言われてしまう。かわりに装飾芸術美術館というのに入館。家具や食器の展示が面白く、意外にもじっくり見入ってしまう。普段インテリアには無関心なほうだ。素敵なインテリアを目にするといつか新居を構えたら揃えようと想像していることに半分うんざりする。消えたと思って

いた結婚願望を発見してうろたえる。

一人で生きていく覚悟も甲斐性もないくせに結婚願望を抱えていると悪のように考えてしまう。そして結局のところ私は結婚したいので、ここ数年ずっと罪悪感から逃れられない。根底には配偶者の収入に頼りたいと願う自分への嫌悪。

専業主婦は悪徳だとすりこまれた自分の進学校生活。

ああ、独身とか既婚とか職業とか。一切の肩書きのない惑星に移民したい。

しかし、私は今のお針子という職業がとても好きなのだけれど。

3月10日



昨日は美術館のあと、再びシテ島のあたりにいってぶらぶら散歩。

そしてプランタンに買い物へ。インテリア熱が高まっていたところだったので、あまりにシックなフランスのインテリア用品にみとれる。ついにどうしても自宅の食卓のテーブルにテーブルクロスを買いたくなり、真夜中の両親に電話して叩き起こしテーブルのサイズをメールしてもらおう。店員さんにサイズを伝え、布をカットしてもらおう。昂奮して買ったはよいが、我が家のキッチンに真っ赤なテーブルクロスなど似合うのか恐ろしくなってきたのだった。

夜はまた宿の皆さんと飲みながらおしゃべり。チーズもワインも安くておいしい！



今日はこれからドラクロワ記念館へ。平野啓一郎「葬送」を読み、ドラクロワに興味を持った。

今はカフェでお昼ごはん。サンドイッチとコーラ。

今日は宿で天ぷらパーティの予定。買い出し係なので夕方には待ち合わせのスーパー、モノプリへ。楽しみ。



パリは素晴らしい快晴。オープンカフェには人がぎっしり。半袖の人まで見掛ける。

私は公園のベンチで日向ぼっこしているうちにうとうと眠ってしまった。

本を読む男性、寄り添うカップル、縄跳びする少女。公園は平和そのものだ。

紅い花の咲く樹の下で、まだ夢の続きの気分。パリの夢。永遠に覚めないでほしいよ
うな。

旅がもうすぐ終わる。

3月11日



昨夜は天ぷらパーティ。同室のマイミクになった、んまさんがプロ級の腕で天ぷらをばしばし揚げてくれる。んまさんとは同じ年で、2段ベッドの上と下という関係。とても仲良くさせていただいている、素敵な女性。

中華食材店で買ったエビ、チーズかまぼこ、マダムがさしいれてくださった野菜たち。たくさん食べて幸せ～。

今日はパリ最後の夜。明日の夕方には日本への飛行機に乗る。

今回の旅についてまだうまく言葉にできない。そのうちきつとなにか書くとと思うけれど、今は思い出がマーブル模様に渦巻くだけ。

まだ胸は苦しくない。切なさはきっとあとからやってくる。

今は静かに、朝のパリを窓の外に眺めて穏やかな気分。

最後のまで無事に旅ができますように。

拙い旅の日記を読んでもくださったマイミクの皆さんにも感謝を。



旅の疲れがピーク。

今日は午前はだらだらと過ごす。明日帰ると思うと緊張の糸が切れた感じ。明日空港へ向かうときになにか失敗をしなければよいけど。

今は宿のある街を散歩。運河沿いを歩き、日曜日の賑やかな公園のベンチ。

19区なのだが、明らかに移民の街。多様な人種が入り混じる。

新しく開発されている地区らしく、近代的な建造物に囲まれている。未来都市といった趣。飛び交うフランス語は聞き取れないので、別の惑星にいるようなSFな気分でもある。

みんなどこを目指して歩いているのだろう。私はどこをこれから向いて歩いていくべきなのだろう。何かが判ったわけでもなく、ますます混乱している。

感情も思考も拡散してゆくばかりで、胸が空っぽ。ざわざわと落ち着きなくて、私は焦るような気分。道しるべなんて見付けられなかったよ。途方に暮れてひとまず日本だよ。

焦るような気持ちを一生抱えて走り続けるしかないということが答え？だって私は足をとめたくはない。

生きていくということ。それは喜び。それは悲しみ。それは平凡。

長い道のりが目の前に拓けている。あくせく地味に生きていこう。そんな旅のしめくくりの気分。

3月12日



旅が終わる。

シャルル・ド・ゴール空港内。

セキュリティがあっけないほど甘くて拍子抜け。

暮れなずんでゆく窓の外には飛行機のシルエット。

放心。

心地よい疲れ。

日本とか韓国とかフランスとか、国籍や国境がくだらないものに思える大空へもうすぐとびたつ。

写真にうつっているのは宿で一緒だった美形の男の子。パリに留学しているそうで、宿によく遊びにきていた。写真に撮るとますますきれい。絵になるなあ...

昨夜はしみじみ飲んだ。大騒ぎしつつも、頭の芯が酔っていかない。

夜更けに目を覚ますとなにか不思議に甘い気分。ここは夜の底なのかしら？しばらく暗闇で目を凝らした。暗闇はしだいに溶けてゆき、私は何かを確かに見たような気がしている。

あと少しで搭乗。

以上で旅の日記の記録は終わりです。ここまで読んでくださって本当にありがとうございました。この記録を元に、いつかちゃんとした旅行記が書きたいものだと思っていましたが、日常に流されてなかなかそれに着手することもできないまま、いつの間にかまとまった時間が経ってしまいました。でも時間が経ってみると、リアルタイムでアップしてきた日記もそれはそれで味わい深いような気もしてきたので電子書籍に残しておこうと思います。

当時はまだtwitterというものはありませんでした。今でも海外で携帯などを使うと通信費の問題はあるかと思うのですが、もしtwitterを使っていたら、このmixiにアップしたものよりもより「リアルタイム」感にあふれる旅行記が出来たのかな？

それともあまりにも細切れな呟きよりも、一日に1, 2回のアップにしたこのくらいの旅行記のほうがそこそこまとまりがあるのかな？～などということ最近を最近を考えます。

いつかはtwitterを利用して、旅行しながらほんとのリアルタイムを呟けたら面白いだろうな。

通信費の問題があること、あとは今は一人旅がなかなかできない環境にいるので（子どもが小さい）、

またもう少し時間が経って、いろんな問題が解決してその夢がかなうことを信じています。

ちなみに、一ヶ月、これだけをメールで送信し続けて、

携帯の通信費は基本料金以外にかかったのが約1万円でした。

mixiの閲覧などはネットカフェなどだけにして、携帯の使用はあくまでメール送信だけに徹してこの値段です。わたしとしてはすごく安く感じたのですが、それを安いと思うか高いとおもうかは人それぞれでしょうね。

国内にいても長電話をたくさんしてしまった月に使用量が1万円を越えたことはあったと思うので、海外での一ヶ月で1万円は決して高くないと思うのですがねー。

twitterだとこうはいきませんよね。早く海外でも安価で携帯電話からインターネットが出来る時代がこればよいですね～！

そしてまた1人でバックパックを背負って旅に出たいです。

ほとんど、呟きを呟くための旅に次は出たいと思っています。

ではでは！

感想などを聞かせていただけると励みになります。ぜひお聞かせください。お待ちしております♪

makeanovel